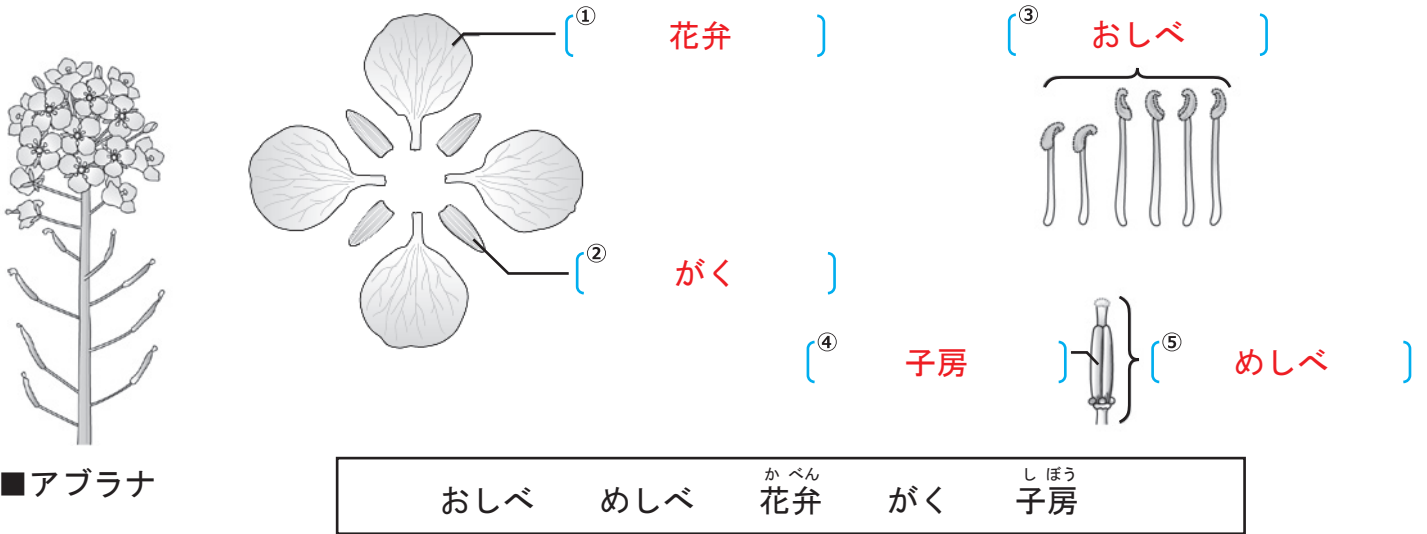


植物の体の共通点と相違点(1)

【1】下の図はアブラナの花を分解したものである。〔 〕に当てはまる言葉を から選んで書きなさい。



【2】次の文章は花のつくりとはたらきについて説明したものである。()に当てはまる言葉を書くか、○で囲みなさい。

- (1) 花のつくりは、外側から順に、(がく) → 花弁 → (おしべ) → めしべ の順についているものが多い。
- (2) めしべの先端の部分を (柱頭・子房)、もとのふくらんだ部分を (柱頭・子房) という。
- (3) 柱頭と子房の間の部分を (花柱・胚珠) といい、子房の中には (花柱・胚珠) という小さな粒が並んでいる。
- (4) おしべの先にある袋を (花粉のう・やく) といい、ここに (花粉) が入っている。
- (5) アブラナやエンドウのように花弁が1枚1枚離れている花を (離弁花・合弁花) といい、そのような花をもつ植物を (離弁花類・合弁花類) という。
- (6) ツツジのように花弁が一つにくっついている花を (離弁花・合弁花) といい、そのような花をもつ植物を (離弁花類・合弁花類) という。
- (7) アブラナのように、子房の中に胚珠がある花をもつ植物を (被子植物・裸子植物) という。
- (8) 柱頭に花粉がつくことを (授粉) といい、そのあと子房はふくらんで (果実・種子) となり、胚珠は (果実・種子) となる。
- (9) マツの花はりん片が集まってできていて (雄花と雌花・がくと花弁と子房) がある。
- (10) マツの雄花には (花粉のう・やく) という花粉の入った袋がある。花粉は (風・昆虫) によって遠くまで運ばれる。
- (11) マツの雌花には子房が (あり・なく)、胚珠がむき出しでついている。このような胚珠がむき出しになっている植物を (被子植物・裸子植物) という。